

令和5年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会

第2回全体会議 記録

日時：令和5年10月18日（水）

午後2時00分～3時30分

場所：刈谷市役所 3階301会議室

出席者

団体名・役職等	氏 名
愛知大学 教授	鈴木 誠
愛知淑徳大学 助教	熊澤 友紀子
刈谷市小中学校長会	細川 圭子
刈谷市自治連合会	大野 裕史
刈谷市女性の会連絡協議会 会計	加藤 文子
刈谷市ボランティア連絡協議会 会長	矢田部 寿子
NPO 法人刈谷おもちゃ病院 理事長	三輪 恒雄
文化工房かりや 代表	久保田富士子
防災ママかきつばた 代表	高木 一恵
一般公募	石田 彰宏
一般公募	岡 由香
一般公募	水鳥 幸子
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛
市民活動部長	近藤 和弘

欠席者

刈谷市商店街連盟 専務理事	柘植 祥史
一般社団法人まちづくり支援センター 代表理事	塚本 裕章

事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部市民協働課	協働推進監兼市民協働課長	渡部 貴美子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼協働推進係長	小原 崇照
市民活動部市民協働課	主事	内藤 佑佳
市民活動部市民協働課	主事	前川 和奏
NPO法人ボランティアネイバース	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランティアネイバース	理事・事務局長	遠山 涼子

1 開会

- ・定刻になり、市民協働課課長が開会を宣した後、資料確認を行った。

2 議題

(1)まちづくりん部会の報告について

■【資料1-1、1-2】を提示し、まちづくり部会の協議結果について事務局が説明

（令和5年度の活動実績）

- ・まちづくりコーディネーター（以下、まちコ）とは、地域の課題を「自分ごと」として考え行動し、ボランティアや市民などをつなぐお手伝いをする「まちのお世話役」である。

ア：派遣：4件（8月23日時点）

- ・ファシリテーター派遣（重原地区住民会議・小山自治会勉強会・ワールド・スマイル・ガーデンーツ木実行委員会）、入庁3年目職員対象まちづくり講座のグループワークへの参加等、延べ12名を派遣。

イ：まちコゼミ：

- ・大野ゼミ（地域課題の解決手法を学ぶ）[4回]、塚本ゼミ（まちコ各々の活動経験を共有）[3回]

ウ：交流会

- ・【第1回】9月16日（土）に開催。大野ゼミで学んだ課題解決手法のミニ講座、まちコカフェ体験会を開催。まちコに限らず参加を呼びかけた結果、地区からの参加も含め25名が参加した。
- ・【第2回】令和6年2～3月「まちコ活動収穫祭」を予定。

エ：まちコ養成講座「つなぎの学び舎」

- ・7月9日から開講。全7回開催。13名受講。

（地域活動の活性化に向けた検討）

- ・小山・重原・高須3地区の事例を参考に、今後2年間の取組方針を検討した。
 - 1）モデル自治会で具体的な調査や実験的取組を行う、2）地域の小さな集まりに出かけて、つながりづくりの実態や情報を収集する、3）地域が主体的にやりたい取り組みに焦点を当てる、4）地域の手柄や成果を生み出すようまちコは陰で支える役を担う、4点を取組方針として今後検討する。

（まちコカフェ倶楽部発足）

- ・刈谷市民ボランティア活動センター（以下、ボラセン）にまちコカフェ倶楽部として団体登録をした。まちコカフェ（お茶を飲みながら気楽に話し、困りごとや相談事についてまちコが話を聞く）をボラセンで開催する。第1回まちコカフェを12月3日（日）わかまのつむぎ場で実施予定。

■質問・意見交換

【まちづくり部会協議報告】

委員：まちコカフェ倶楽部として有志の方で団体登録をいただいたことで、イベントに出てもらったり紹介しやすくなる。つむぎ場では23地区を取材する取組を4年前ほど前から始めており、残る12地区の取材に5名のまちコに協力いただく。まちコの皆さんに事業に携わってもらいありがたいと思うとともに、今後の広がりを期待している。まちコの取材パネル展示を見に来てください。

委員：自治会取材では、半城土地区を担当。自慢できる取組や課題をヒアリングし、事前のアンケート結果をもとに聞き取りを予定している。

【マンガラートを用いた地域課題解決】

委員：毎月開催し、平均8名程が参加。小山地区から課題解決する手法を学びたいと依頼をうけて、マンガラート・Todoリストを用いた勉強会を12月、2月、7月、9月と4回開催してきた。これをきっかけに、まちコ自身も学ぶ機会を設けようとゼミのテーマとして取り上げて計5回開催した。ゼミでの講義で用いたパワーポイント資料をまちコルームで共有し、9月のまちコ交流会ではマンガラート体験会の講師をまちコが務めた。

また、自治連合会から勉強会の依頼があった。課題を整理できていなければ具体的な対策を立てられない。皆で話をしながら課題を整理することが肝である。

委員長：マンガラートは難しいが、皆さん一緒になってがんばって取り組まれた。

委員：みんなで「なぜ？」を考えると、自分で考えつかなかったことが浮かび上がる。ワークショップで取り組むにはよい手法である。

委員長：自治連合会で共有して皆で研修するという点も、何回か重ねてやっていくとよい。

委員：研修に参加した人が地区に持ち帰り、次の依頼につながっていけば成果と打ち出せるのではないか。

委員：自治連合会で勉強会に取り組みられるのはよいことであり、広めていただきたい。

【まちカフェ倶楽部】

委員：まちカフェ倶楽部がおもしろそうだと感じた。任意団体としてボラセンに登録されて、12月3日を皮切りにこれからどんな活動をされていくか、長期的にどんなビジョンがあるか、お聞きしたい。

委員：交流スペースに集まってコーヒーを飲みながら、いろいろな話ができるとうい。話をする中で困りごとやできることが確認できたら、まちコの皆さんの活動の材料が拾えるのではないか。

委員：ボラセンの場所やお茶などが使えるのか？予算はどのようになっているか。

委員：会費を集めたらできる。これまでまちコを対象に相談会を開いて、まちコ自身の持ち場の活動で問題が出た時に相談にのっていた。今回はまちコに限らず、一般に開いて相談対応する。自治会からまちコに依頼を出すことは敷居が高いが、そうした場で話をすることで敷居の低いところから始められる。ボラセンの支援対象に地域団体が含まれてきており、支援を連携していけたらと考える。

委員：これからむけて1回目の話し合いを終えたところである。今まで市民協働課からの依頼に対応してきたが、自分たちで取り組んで前に進めていく気持ちが皆さんの中で湧きあがった結果と考える。つむぎ場に出展し、団体交流を通じて、自分たちでやれることや提案できること、他の団体から吸収できそうなことなど学びたい。柔軟な気持ちで前向きに臨みたい。

委員長：よい形で続けていただきたい。まちづくりコーディネーター等のしくみは、他自治体においても制度を設けた行政からの依頼を待つことが多くなりがちで、意欲を持ってコーディネーターになったものの、何をするのか、次はどこに向かえばいいのか迷ってしまうケースも多い。自主的に団体登録して他の団体と交流しながら、別の団体との出会いを設けたり、地域の困りごとに参加していこうと取り組まれることは前向きでよい。成果を委員会においても紹介いただきたい。

(2) 夢ファンド部会の協議報告について

■【資料2-1、2-2】を提示し、夢ファンド部会の協議結果を事務局が説明

(寄附金実績)

・市民からの寄附を基金に積み立て、寄附と同額を刈谷市も基金に積み立てる「マッチング・ギフト方式」を採用し運用している。ふるさと納税による寄附が増えており、例年に比べて寄附金額が増える見込みである。

◎<部会でのご意見>将来にわたり寄附金収入が見込まれ予算が確保できる場合は、補助金額を増やしたり、補助率を上げたり検討するとよい。

(ファンドレポート)

・採択団体の活動現場をまちコが取材し、活動の成果を発信するとともに、まちコが刈谷のまちづくりについて学ぶことで、まちづくりコーディネーターとしての引き出しを豊かにする活動。

・ツツ木で行われた「はっぴ祭り」(10月1日)、「元刈谷地区歴史関連冊子制作・発行」(9月21日)に各2名のまちコにより取材を行った。

(まちづくり活動支援事業補助金：補助対象5万円以下の申請書類の簡素化)

・補助金額に対する申請者の負担軽減をはかるため、団体側が記入に際し検討を要する項目の多い事業計画書様式の簡素化を検討した。なお、審査に必要となる項目に漏れないよう、審査の側面からも議論を行った。

◎<部会でのご意見>事務的に記述が可能な活動概要は残し、事業計画書の項目を統合して簡素化することを確認した。申請相談時に活動内容や背景を丁寧に聞き取り、考えをまとめるサポートをするとよい。

(採択事業の活動状況に関するアンケート)

- ・事業実施後の活動状況の把握と、事業の継続・発展に必要な支援の検討を主目的とする。
- ・対象はまちづくり活動支援事業21事業、NPO 法人設立支援事業8事業とする。
- ・8月に調査票発送、9月締切、第2回部会で結果を報告する。

◎<部会でのご意見>事業が継続していれば補助金の意義が確認でき、継続できなかったケースから団体が自立できるための支援の在り方を検討できる。一部団体にはヒアリングによりヒントを得るとよい。

■質問・意見交換

【夢ファンド部会協議報告】

委員：アンケート結果速報値から活動継続の状況を確認できて喜ばしい。部会では、団体が申し込みやすく、かといって活動がおろそかにならないよう、申込者目線で意見をいただき申請書類を改善できた。今年度の申請状況が分かれば教えていただきたい。

事務局：まちづくり活動5団体、うち5万円以下の申請は3団体であった。5万円以下の申請は、前年度初めて応募が1件あった状況から、申請書類を簡素化した結果、3件に増えた。また、NPO 法人設立支援事業1団体から応募があった。

【夢ファンド補助金制度改正・活動休止の理由】

委員：かねてより補助上限額を上げるもしくは100%助成としてほしいと申し上げてきたが、アンケート結果からも補助上限額を上げてほしいと希望される方が多くあったため、取り組んでいただきたい。また、どう継続するかも大事であるが、「休止・中止」「縮小」した理由が重要である。今後アンケートを取る機会には、休止や中止をする理由を確認するとよい。

事務局：「休止・中止」「停止・終了」と答えた方に理由を尋ねたところ、4団体中2団体より「コロナによる活動休止」との回答であった。ヒアリングにより具体的なニーズを補足する必要がある。

【アンケート調査速報結果の読み取り】

委員：対象者と回答者の実数を教えてほしい。

事務局：NPO 法人設立は8事業を対象に調査を行い3事業から回答、まちづくり活動は21事業中14事業から回答、合わせて29事業を対象に17事業から回答が得られた。

委員：対象数が少ないため、パーセント表記する意味があるかどうか。

事務局：回答者は事業を続けている方が中心であって、返信のない方は事業が縮小したり、活動が止まっていたりする可能性がある。回答した中での実態ではあるが、全体を表す数字とは捉えきれない。

委員：回答のあった事業では、「認知度が高まった」に続いて「担い手の力量が上がった」「協働相手との連携が深まった」「財政の基盤ができた」と成果が上がっている。夢ファンドの目的に近いものが上位にあれば制度の成果として捉えられるのではないか。

委員長：制度の目的と回答の結果との相関関係はどうか。

事務局：夢ファンドの利活用促進を目的に調査を行っており、設置目的に沿って回答結果をあらためて確認する。調査結果は件数表記に改める。

委員長：回答数が小さく、実数の方が理解しやすい。より理解しやすいよう配慮いただきたい。

【活動のPR・周知】

委員：一ツ木地区の活動を確認できてよかった。補助金を活用して地域のお祭りが取り組まれたことは、地域でも知られていない。市広報に記事は出ているが、地域の方にももっと知ってもらいたい。まちコについても同様に思う。委員会で初めて知ることが多い。ワールデンの活動にまちコの方に来てもらっているが、こうした取組を広く伝えると多くの方に興味を持っていただけるのではないか。

委員：行われている活動やどのように取り組まれているかについて、PR方法を考えなければいけない。ボランティアする人を集めるためにとにかく募集する。やりたい人はたくさんいるが、多くの場合、自

分の活動に一生懸命で他の団体が何をしているか分からない。市として、誰がどんな取組をしているか、夢ファンド活動に限らず全体について、市民のみなさんへ知らせる努力が必要ではないか。

【寄付金を集めるPR活動】

委員：寄付金を集めるためのPRが必要。ちょっとしたお金を寄付することが市民に浸透して、認知度が高まれば、補助金を団体が使う機運も生じる。使うことと集めることを同時に広報・PRしていくとよい。広く市民から集める方法はいろいろとある。両方をバランスよくPRできるとよい。

委員長：お金の使い方を考える時代に突入したと言われる。収入が伸びず所得が増えない現実はあるが、現役世代や年金収入で生活する方も含めて、手元のお金を社会のためにどのように有効に活用できるか、金額多寡に関わらず検討されている。しかし、情報がなかなか届きにくく、有効に活用する方法が見えてこない。少額でも集まれば地域のための重要な資金源となる。仕組みをつくり、普及させることも大事であるが、誰がどのようにやるか、知恵の働かせどころである。

委員：ポラセンでは「ぐるぐる基金箱」を設置し、子どもたちが喜んで募金する機会を提供している。

(3)市民協働事業の進捗状況について

■【資料3】を提示し、市民協働事業の進捗状況について事務局が説明

(共存・協働のまちづくり講座(学習編))

- ・入庁3年目職員30人受講。市民と行政が共存・協働のまちづくりを進めていくうえでの考え方と行政の対応を学ぶ目的で実施。
- ・大野委員より「協働するとはなにか」について講義の後、地域づくりコーディネートゲームを用いて資源や条件をもとにコーディネートの実践を学ぶグループワークを行った。

(かりや衣浦つながるネット)

- ・刈谷市、知立市、高浜市、東浦町の市民活動情報サイト。
- ・10月1日(日)～11月30日(木)の2カ月間、対象地域をめぐるスタンプラリーを開催中。

(協働のまつり場)

- ・令和3年度全庁対象に行ったアンケート(市民協働診断)の結果をもとに、公園緑地課「公園管理事業(公園等愛護会)」を選定。12月以降開催予定。

(わがまちのしゃべり場/まなぼうさいとコラボ開催)

- ・11月19日(日)ポラセン事業「まなぼうさい」とコラボ開催。ポラセン登録団体500超へちらしを送付。「まなぼうさい」での学びや気づきから参加者が思いを口にするきっかけを「しゃべり場」コーナーのブース出展により提供する。

(わがまちのつむぎ場)

- ・12月3日(日)ポラセンで開催。約20団体が参加し、市内23地区紹介パネルを展示予定。5名のまちこが地区取材に協力してパネル作成を行う。パネルは12月24日(日)まで市民交流センター1階玄関ホールに展示予定。

■質問・意見交換

【ファンドレポートの取材活動】

委員：地元の活動を担当した。高齢の方が中心に活動されており、幼い頃の思い出を形作られたり、いろいろなところから情報を集めたり、元刈谷という地域に多くの歴史があることは知っていたが、初めて知ることも多かった。今後、後を継ぐ世代を集められていくと思う。取材時に、回覧板を通じて150部程申込みを受けたと報告があったところ、先日回覧板で再募集があった。歴史だけでなく、まちをよくしたい、よく知ってもらいたいとたくさんの方の目に触れてもらうことを希望されている。地元に住んでいながらすごい方々と活動を初めて知る機会となった。歴史が好きで、学校の先生を退職された方も多く、専門家として活躍されている。

【まちづくり講座(職員研修)からみえた市民協働の目線】

委員：入庁3年目、目線がまだ固まらない部分はあるがそのまま育てほしい。講師を10年ほど務めているが、以前に比べて声を出す人が多くなった。ワークショップ手法を取り入れていることもあるが、楽しそうに参加している。立ち上がって参加している人が多い様子が印象的だった。あと10年ほど続けると市役所内でいろいろな人から声をかけられるようになるだろう。

委員長：若手職員の主体性や市民と関わる姿勢は所属する部課長の姿勢に影響されると聞く。職員の地域への関わりを歓迎しないと萎縮してしまうが、協働をまちのブランドと考える部長であれば、積極的に地域への関心を持つようになる。

委員：部課長は、対話の経験は少ない世代であり地区に対して身構える接し方であったが、係長職の中心40代より若い世代は、垣根がない。学生時代にグループワークで意見を交わしながら方向性を作り出すことに慣れている面もある。職員研修の内容も座学は少なくなっている。知識が必要なことはあるが、住民と話し合いながら方向性を見出していく重要性が見直されており、それが地域のための施策となることが認識されている。そうしたことに慣れている世代が増えてきており、部課長職においても重要視される傾向は今後強まっていくだろう。市の施策を押し付けるのではなく、住民が納得しながら方向性を導きだしていくことは重要である。

委員：まちづくり講座に市民役で参加した。市民に対して身構える様子があったため、皆さんの役に立ちたいと考える市民もいるので仲よくしてね、と気持ちをほぐしながら話をした。そうした気持ちがあるうちは、市職員の皆さんに理解を深めていただけるような活動をしていきたい。

委員長：入庁3年目の職員では、自由に自分の立ち位置を作れることは少なく、地方自治法に基づいてどう仕事をしていくべきか考えているため構えてしまうところもあるだろう。若手の市職員はどう考えるか。

事務局：福祉部署では、対峙する市民には何かしら求めることがあり、要望に応えることが求められていると考えていたが、市民協働課では市民と一緒に進めていく、考えていく姿勢と考え方があることを知り、市民に接する際の見え方が変わった。

事務局：入庁2年目、来年度講座を受ける。初めて着任したのが市民協働課であるため、逆に、市特有の考え方が備わっていないのかもしれない、窓口業務につくと新たなギャップを感じるようになるのではないかと。

委員長：まちコの皆さんが研修に参加することにより、日常の暮らしの中から協働に関する考え方を行政側に知ってもらえるよう、工夫しながら取り組むことは有意義である。「協働とは/How to」が講義の中軸になりがちであるが、協働は本来普通のことであり、日常生活の中で共存・協働を語ってもらうことは、職員の仕事の仕方においても有意義である。

【まちコのしくみについて】

委員：豊田市を参考にまちコのしくみが立ち上がったが、豊田市では制度が継続されなかった。10年続けていることは素晴らしい、もうあと10年続けてほしい。

委員長：続ける決断とともに辞めない判断をすることも大事なことである。

3 その他

■今後の開催日程

- 【推進委員会】 ・第3回 令和6年3月19日(火) 14時00分～15時30分
- 【夢ファンド部会】 ・第2回 令和5年11月13日(月) 14時00分～16時00分
- ・第3回(公開審査会) 令和6年1月13日(土) 12時50分～
- 【まちづくり部会】 ・第2回 令和6年1月22日(月) 14時30分～16時00分

■会議議事録の送付方法の変更について

- ・今回の議事録より、郵送もしくはメールのうち委員が希望する方法で送付する。

以上